



平成 24 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 大 幸 薬 品 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柴 田 高
(コード番号：4574 東証第一部)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 財 務 本 部 長 吉 川 友 貞
(TEL. 06-6382-1135)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 5 月 13 日に公表した業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

平成 24 年 3 月期連結会計年度（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	5,500	84	84	10	0.82
今回発表予想 (B)	6,400	450	460	350	27.04
増減額 (B - A)	900	366	376	339	
増減率 (%)	16.4	432.1	447.2	—	
(ご参考)前期実績	4,619	△1,242	△1,192	△2,228	△173.55

修正の理由

(売上高)

当連結会計年度（以下、「当期」）の売上高は、感染管理事業の牽引を主として、前回予想比 900 百万円増（16.4%増）となる 6,400 百万円を予想しております。

医薬品事業につきましては、堅調な店頭販売を背景に、主力製品『セイロガン糖衣A』の出荷が計画通り推移していることに加え、計画では見込まなかった口中溶解タイプの止瀉薬『ピシヤット錠』の販売開始や小児五疳薬『樋屋奇応丸』の独占国内販売権取得等もあったことから、国内向け売上高は当初の計画を上回る見込みであります。また、海外向け売上高につきましても、想定以上の円高影響を受けつつも出荷数量の伸びにより、中国・香港向けを中心に当初の計画を上回って推移しております。これらにより、当期の医薬品事業の売上高は、前回予想比 228 百万円増（4.7%増）となる 5,064 百万円を見込んでおります。

感染管理事業につきましては、店頭製品陳列の演出強化やTVコマーシャル放映の効果等により、製品需要が高まる第3四半期から第4四半期かけて、主力製品である一般用『クレベリンゲル』の出荷が計画を大幅に上回って推移しております。業務用製品もゲル剤を中心に計画を上回る見

込みであり、さらには低濃度二酸化塩素ガス発生装置『クレベリン発生機』の出荷も堅調な推移を見込むことから、当期の感染管理事業の売上高は、前回予想比 669 百万円増（103.9%増）となる 1,314 百万円を見込んでおります。

なお、当期は無人状態での車室内の除菌・消臭を目的とした新製品「車両用クレベリン」を株式会社デンソーと共同開発する等、業務用における新たな戦略も開始しております。

また、今回発表予想の売上高におけるセグメント別内訳は以下の通りであります。

セグメント別連結売上高(平成 24 年 3 月期連結会計年度)

(単位：百万円)

	医薬品事業	感染管理事業	その他事業	売上高合計
前回発表予想 (A)	4,835	644	19	5,500
今回発表予想 (B)	5,064	1,314	20	6,400
増減額 (B - A)	228	669	1	900
増減率 (%)	4.7	103.9	8.5	16.4
(ご参考) 前期実績	4,612	△20	26	4,619

(損益面)

売上高が予想を上回ることに伴い、売上総利益も計画を大幅に上回る一方、販売費及び一般管理費につきましては、主に広告宣伝や販売促進策の強化（春先からの店頭販促を目的とした医薬品事業関連のTVコマーシャル増量や衛生管理製品のさらなる認知度向上に向けた諸施策等）を予定することから、計画に対して増加する見込みであります。これらの結果、当期の営業利益は、前回予想比366百万円増(432.1%増)となる450百万円を予想し、経常利益も前回予想比376百万円増(447.2%増)となる460百万円を予想しております。

なお、第3四半期をピークに第4四半期の売上高が減少に向かうことに加え、上記の通り、期末に向けて広告宣伝費を主とする販売費及び一般管理費の増加を見込むことから、第4四半期につきましては、営業損失を見込んでおります。

確定拠出年金制度への移行等に伴う退職給付制度改定損や営業拠点（東京）移転に伴う所有不動産の売却契約に係る減損損失等、特別損失140百万円の計上が上期にあったものの、法人税等調整額の減少を見込むことから、当期純利益は、前回予想比339百万円増となる350百万円を予想しております。

なお、当期の配当予想につきましては、前回発表予想から修正はありません。

上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上